

県酪だより

福島県酪農業協同組合

平成28年度生産奨励対策事業のご案内について

平成28年度の実績がこのほど理事会で決定されましたのでご紹介します。

ホル雌子牛の不足が深刻化しており北海道の初妊牛相場が高騰しています。このままでは安定した酪農経営を継続していくのは難しくなることが危惧されています。

よって、組合では昨年に続き、自家後継牛確保に重点を置き、更にパワーアップした内容の生産奨励対策を皆様にご提供することとしました。育成牛舎が無い方は若齢預託・北海道預託事業をご活用下さい。育成牛が余れば組合乳牛市場をご利用ください。(ホル雌子牛も高値取引されています)ホル雌子牛を増産しましょう!!

【1】乳用後継牛安定確保推進事業（継続）

目的:乳用後継牛の生産・育成に対する取り組みを推進し、経営基盤の充実強化、酪農経営の安定化と生乳生産の安定化を目的とする。

内容:自家生産(導入牛が生産したものも含む)をし、血統登録をしたホル雌子牛に対して10,000円/頭を助成する。

【2】乳用後継牛緊急確保対策・乳用性判別精液等交配促進事業（新規）

目的:乳用後継牛不足により高騰している初妊牛相場に対して、乳用後継牛を確保し、安定した酪農経営を継続するために緊急的に乳用雌子牛を増産することを目的とする。

内容:乳用性判別雌精液の授精又は乳用性判別雌受精卵の移植の実施に対して、10,000円/回を助成する。全組合員に対して一定の割合で助成配分額を個別通知し、年度末に未使用分がある場合は再配分を実施する。北海道預託牛への授精も含む。

【3】混合等飼料利用対策奨励金交付事業（継続）

目的:混合飼料、TMR飼料の利用者の計画的拡大と健全経営の確立を支援し、併せて系統利用率の向上、ならびに混合飼料の安定的供給、拡大を図る。

内容:本組合が供給した混合飼料に交付する。

○混合飼料

各四半期合計48.0トン以上(月平均16トン以上) : トン当たり 1,500円

各四半期合計24.0トン以上(月平均8トン以上) : トン当たり 1,000円

各四半期合計12.0トン以上(月平均4トン以上) : トン当たり 500円

○FDミックス

各四半期合計90.0トン以上(月平均30トン以上) : トン当たり 1,000円

各四半期合計48.0トン以上(月平均16トン以上) : トン当たり 700円

各四半期合計22.5トン以上(月平均7.5トン以上) : トン当たり 300円

その他福島県の緊急乳用雌牛導入支援事業(県外導入牛に対して8万円/頭)が継続されました。今年は200頭の枠があります。また、東日本交付金(82.5%)高能力乳用性判別雌受精卵助成等がありますので、計画的に各種事業をご活用ください。

性判別精液は、推奨融解方法で受胎率アップを図りましょう!

凍結精液は、融解する過程でダメージを与える有害温度域(-40℃~-15℃)を素早く通過させる必要があり、特に性判別精液はこの有害温度域に弱いため、事業体毎にデータに基づき融解温度と時間を設定しています。

利用に当たっては、推奨融解温度と時間を厳守し、授精師等に依頼する場合でもこれらの厳守をお願いして受胎率の向上に努めてください。

事業体毎の推奨融解方法 ※特に融解温度の厳守が重要です!

事業体	名称	ストロー容量 (ml)	融 解	
			温度(℃)	時間(sec)
家畜改良事業団	Sort90	0.5	38	15
ジェネティック	GH-X	0.5	37	40
十勝人工授精所	T-X	0.5	35~37	40
野沢組	SEMEX	0.25	37	40
	Wold Wide Sires	0.25	35	45
	Gender SELECTed	0.25	35~37	30

福島県酪農業協同組合

福島県酪農青年研究連盟主催

第六十三回酪農発表大会・酪農講演会を開催！！

福島県酪農青年研究連盟（会長 佐藤正仁）が主催する第六十三回酪農発表大会・酪農講演会が二月二十三日（火）郡山市日和田「福島県農業総合センター」にて、会員・関係者九〇名に参加頂き、開催されました。

この大会は、県内各地の



優秀な酪農経営の成果を発表し、それに基づく意見交換を行い、これによって酪農経営の合理化、そして近代化を推進して、本県酪農発展に資することを目的として開催しています。

開催に先立ち、福島県酪農青年研究連盟 佐藤正仁

会長より、「昨年、TPP大筋合意がなされ、その影響も大きく取り上げられておりますが、より身近で起きているのは生産基盤の弱体化であり、酪農業界だけではなく、高齢化・後継不足のため酪農を辞めるという方が多くなっており、この傾向は今後、五年、十年加速されると思われる。今、酪農業界には大きな変化が求められており、国

内に酪農・畜産が必要なことを示さなくてはなりません。

牛乳・乳製品の供給とともに農地を維持するためにはトウモロコシや牧草の自給飼料の栽培、飼料米の利用あるいは放牧を通じて耕作放棄地を減少させることが課題となる。なかなか、先行きが見通せない状況ではあるがたくさんの若い方々が参加し集まっており、皆さんと高いモチベーションを持ちつつ、福島の酪農を元気にしていきたい。今回の二人の発表者は、福島県代表として、さらに東北代表として、全国を目指し頑張つてほしい。」と挨拶し、福島県酪農水産部畜産課 伊藤純一課長（代読：福島県酪農総合センター畜産研究所 志賀茂所長）、福島県酪農協 宗像実代表理事組合長より来賓祝辞を頂き、発表に入りました。

はじめに、県中酪農研究会 宗像敦さんの「橋架部隊から地域の架け橋へ」自給飼料増産に向けて」と題し、昭和四十年ごろに葉タバコ農家だった祖父

が、安定した収入を得る為牛を二頭導入したのが我が家の酪農の始まりで、その後、父により現在生産牛頭数二四頭の対尻式牛舎へ規模拡大して、現在に至ります。兄弟の中でも一番牛が大好きで、毎日牛舎に行き、餌やりなど仕事の手伝いをしたり、共進会の際には学校を休んで父と一緒に参加したりして、「将来は酪農をやりたい」というのが幼い



ときからのひそかな夢でした。将来の進路について、元々体を鍛えるのが好きだったこと、酪農家としても役に立つ資格が取得できると考え、自衛隊へ入隊し、山形県の第六施設大隊本部管理中隊渡河小队に配属され、川に橋を架けたり、ボートを連結させ、車両を乗せて運搬する部隊です。

その後運命の女性と結婚をし、毎日が楽しく、入隊から四年の月日が経ち、ちやうどその頃、実家に連絡をしてみると、「兄弟が誰も酪農を継がない」と、父から伝えられ、迷わず家に帰る決意をし、



第63回 酪農発表大会

「橋架部隊から地域の架け橋へ
～自給飼料増産に向けて～」

県中酪農研究会 宗像 敦 氏

「地域資源循環型経営の復活を目指して
～失われた地域の循環を取り戻す～」

浜酪農青年研究会 袖原 友加津 氏

妻に酪農を継ぎたいと話をすると、「騙された……。」と言こぼしました。しかし、酪農はやらないけど、一緒についていくといつてもいい、将来は一緒に酪農をやりたい、やってももらえるような牛舎環境にしていこうと心に決め自衛隊を除隊し、妻と共に故郷の郡山へと戻りました。初めは酪農への知識や技術もな

く、このまま将来酪農を継いで大丈夫かと、不安な日々がつづいていた中、酪農ヘルパーをやってみないかと県酪農協の職員から声がかかり、勉強の為、将来の自分の為にと、郡山の県中酪農ヘルパー利用組合に就職しました。作業中に、自分が就農した時のことをイメージし、自分に取り入れられそうな技術や作業機械

の使用の比較が出来、大変勉強になりました。その後、二人の子供に生まれ、将来のことを考え、アパートを引き払い実家へと住居を移しました。平成二十七年六月、父が県酪農協の組合長に就任することに決まり、自分が後継者として正式に酪農を引き継ぐことになりましたが、酪農ヘルパーの時は違い、自分次第で経営の状況が良くも悪くもなるので、とてもやりがいを感じ

ていますが、繁殖面等、解からない事も多く日々勉強中です。畑作業や他の仕事をしている中でも、日中には時間がとれ、子供達と交流の時間が沢山持て日々充実した生活を送っています。将来、子供達で酪農はやりがいのある仕事で自分もやってみたいと、思ってもらえるような牛舎環境を整備していくと共に、徐々に妻にも酪農経営に参加してもらいたいと思います。我が家の経営は中山間地域で限られた土地条件の中、大きな投資を抑えて、現状の施設を有効活用する堅実な経営を基本としており、牛群検定を実施し生乳生産量一万キロを維持してきました。飼料価格が高騰している中、今後とも下がる見込みはなく、所得を増やすには自給飼料の拡大が必須だと思います。そこで、現在の牛群成績を維持しながら、最低でも所得金額六〇〇万円、所得率二〇％という金額を目標にしたいと考えたときに、現状の生乳生産量を維持したままデントコーンの面積を今の倍程度に拡大出来れば、目標金額の達成が可能となる結果となりましたが、労働力不足という大きな問題に立ち

ばかり、自分の経営だけでは無く地域全体の酪農の存続、所得の向上を考えた時、コントラクター組織を整備し、共同で自給飼料生産を行うしか道はありません。その為に、今後は自衛隊で叩き込まれたチームワーク、組織論を活かし、地域の酪農と交流を図りながらコントラクター

の確立に向けて進んでいき、自給飼料の増産を目指していき、自衛隊時代に、河川への橋かけを行つた経験を今

度は地域への架け橋として、コントラクター組織の形成、自給飼料の増産を大きな目標とし、酪農家として、日々頑張っていきたいと発表を頂きました。

続いて、浜酪農青年研究会袖原友加津さんの「地域資源循環型経営の復活を目指して～失われた地域の循環を取り戻す～」と題し、我が家の始まりの経緯は、昭和三十七年

第63回酪農発表大会
◆酪農講演会◆

に祖父が親戚から若牛一頭を購入したのが始まりです。その後、昭和五十三年に現在の三二頭対尻式牛舎を建て、昭和五十八年に父が参入し、徐々に頭数を増やしていったそうです。子供の頃から「家を継ぐ者、酪農後継者」として育ち、大学進学までは周りと同じように就職するつもりでいましたが、いざ就職活動という時期に自分を見つめなおしたところ「自然の中で体を動かして働きたい」という思いがあることに気が付き、そんな思いを巡らせながら辿り着いたのが北海道鹿追町の藤田牧場で二年間の研修

が酪農人生の礎になり、平成十三年の秋、福島に戻り就農しました。しかし、平成二十三年の東日本大震災と原発事故により、結婚したばかりで妻が妊娠中だったため、妻が以前仕事をしていた愛知県へ避難することとなり、家と牛は父一人に託さざるをえませんでした。そしてさらに、二か月間の生乳出荷停止を余儀なくされ、経営の基盤である牛たちはモロに被害をうけ、繁殖成績等の大きな支障が出ました。平成二十六年秋に戻ってきたからは通常の繁殖サイクルに戻りつつあるが、経営の立て直しのために牛を増やそうにも、牧草の利用不可、水田の作付制限、そして、家族が郡山に避難している状況もあり、二の足を踏まざるを得ませんでした。しかし、原発事故により経営が一変してしまったが我が家の経営の特徴(信念)は地域資源循環型であり、良質な堆肥を草地に還元することで肥沃な土壌をつくり、そこで生産される栄養価の高い牧草で、コストを抑えながら牛の生産性を高めてきました。昨年より、除染作業が始まり、久しぶりに牧草の新芽をみるこ

ができ、今年はずべての農地で牧草の収穫ができるまでに進み、勿論、収穫後、放射性物質の給与前検査結果次第ですが、ようやく復興にむけてのスタートラインに立ち、牧草が使えることがわかれば、経営の道筋を立てられ、すぐにも震災以前の頭数に戻していきたいと考えています。頭数を戻した際には、柚原牧場の初となる、年間三〇〇tの乳量をクリアしたいと思っており、牛群検定事業を再開し、そして、悲願といっても過言ではありませんが、地域資源循環型経営の完全復活を目指していきたいと思っています。この構想は単に柚原牧場の経営に留まらず、避難休業中の仲間がコントラクターを立ち上げ、避難指示の解除された区域、避難指示解除準備区域において、デントコーン等の試験栽培を始めており、今後は畜産クラスター事業と福島県営農再開支援事業を活用しながら、被災農地を集積することで面積の拡大を図っていく計画が着々と進んでおり、コントラクターがゆくゆくはデントコーンや牧草を浜通り以外の地域に供給すると共に、それらの地域から

浜通りの農地へ堆肥を受け入れられる流通システムが確立できれば、県内の酪農家全体の問題である風評被害による堆肥の滞留問題を解決できるのではないかと思っています。除染により、先人たちが作ってきた肥沃な土壌は全て剥ぎ取られ、今や浜通りの農地は不毛の大地となっているが、循環型農業である酪農は必ずこの状況を打開し、地域農業の復活の立役者になると確信しています。さらに、地域の酪農仲間は避難休業を余儀なくされている中、地域の仲間同士が集まれるように震災後から変わらず、年に数回懇親会を開催してきて、今は酪農ができなくてもみんな顔合わせられれば、やはり「自分は酪農家である」ということを再認識でき、以前とかわらず、地元で酪農を続けることで、「浜通りで酪農を営むことはできるんだ」と、勇気をもってもらいたいと考え、この地で酪農を頑張るつもりです。また、今まで夢描いていた「牧場を六次化したい」という夢に向かって、現在、地域の若手農業者や企業、新規就農希望者と一緒に勉強中です。構想的には、南相馬市の

復興シンボルの一つである常磐自動車道の「セデッテかしま」に柚原牧場のチーズやヨーグルト、アイスクリーム等を陳列し、近い将来、「柚原牧場の乳製品が並ぶセデッテ鹿島」と呼ばせたいと思います。さらに、若いころに実習して感銘を受けた藤田牧場のようにうまくいくかどうかかわりませんが、地域の方や子供たちが気軽に立ち寄り、かつの自分のように若者が酪農を志せる牧場を作りたいと発表頂きました。

意見・体験発表と経営発表頂き、発表者のお二人の酪農に対する思いが熱く伝わり、また、夢や希望を大きく持ち続けられる酪農について、とても大きな魅力を感じましたし、酪農は地域の関わりや大きな役割を背負っており、家族の支えや地域の仲間のつながりがとても重要ということを改めて感じ、宗像さん、柚原さんのように、「夢」や「将来」について、実現していく力強さにまだまだ、福島の酪農の大きな可能性をみいだせたように感じ、発表頂きましたお二人の今後のご活躍、ご発展を期待しております。

午後には、酪農講演会が開催され、東京大学大学院教授鈴木宣弘氏より、「明らかにになったTPPの合意内容と酪農に与える影響について」と題し、講演頂き、無事に酪農発表大会・酪農講演会は終了致しました。



「明らかにになったTPPの合意内容と酪農に与える影響について」

東京大学大学院 教授 鈴木 宣弘 氏

第45回東北酪農青年婦人会議酪農発表大会開催

福島県代表として、 宗像敦さん、柚原友加津さん発表！！

惜しくも東北代表を逃がすものの、酪農への熱い思いを発表しました！！

七月に開催される全国酪農青年女性酪農発表大会の 東北代表は 菅原真由美氏、八巻 誠氏



三月二十三日(水)～二十四日(木)に、宮城県松島町「ホテル松島大観荘」にて、東北酪農青年婦人会議(半澤善幸委員長)主催の第四十五回酪農発表大会が開催されました。当日は一四〇名近くの酪友が東北各地から参加しました。

半澤善幸委員長の主催者挨拶に続き、来賓の農林水産省東北農政局生産部畜産課長

井上利雄氏、宮城県農林水産部長 後藤康宏氏(代読・横山亮一次長兼畜産課長)、みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長 伊藤一成氏からご祝辞を頂きました。

東日本大震災・原発事故の影響により、約二か月間の生乳出荷の停止を余儀なくされ、一時は家族を守るために父を残し福島を離れ避難生活をおくっていたが、二十六年に南相馬市に戻り、経営の特徴でもある地域資源循環型酪農の完全復活に向けて、避難休業中の仲間たちとコントラクターを立ち上げ、デントコーン

等の試験栽培をはじめながら、地域農業の復活の立役者として、また、「六次化」へ向けて、チャレンジしていきたいと発表されました。

『仲間・家族・そして牛と共に歩む酪農』と題したみやぎの酪農青年部・婦人部の八巻誠氏は、現在、経産牛四九頭を飼養し、全頭自家育成で性別別精液を活用して計画的後継牛確保と収益向上に取り組んでおり、DMSシステムを利用し経営分析を行いながら経営判断に役立てている。また、来年、長男が後継者として就農を予定しており、これから指導機関の協力を得ながら増改築や経営改善を行って、より一層経営の安定を図つ



じられたが、今はそれらの実現に取り組み始めたばかりで、成果が十分に見えていない状況であり、二、三年の後、その成果を踏まえて再びこの大会で発表したいと審査講評さ

ていきたいと発表されました。

発表された二名はいずれも優れた内容でしたが、乳質向上策、自給飼料生産、牛群改良、地域との連携等々を考慮し、祖父から代々受け継ぎ、来年には後継者が就農する八巻誠氏が最優秀となり、全国大会へ出場することとなりました。

惜しくも入賞を逃した柚原氏は、厳しい条件・環境の中で地域の仲間の営農再開に向けての支援など、非常に意識が高いところが感じられたが、今



れました。

続いての意見・体験の部では四名が発表され、岩手中央酪農青年婦人会議の島山満理奈氏が『牛も私も女子力アップ!!』と題し、小さい頃から牛が大好きで、家族と一緒に歩んできた酪農、そして念願の就農。順調に進んでいた矢先の父親の突然の他界。本人にとっては、受け入れられないままの度重なる不幸でした。酪農も有り得る状況にもかかわらず迷わず続ける覚悟を決めた。得意な料理を様々な場面で提供し、自らも出品している共進会会場でもカレーや煮込み料理を振る舞ったり、県で開催している『牛飼女子』の集まりにも積極的に参加し情報を集め、牛と自らの女子力アップに活か

していると発表しました。次に、福島県酪農青年研究連盟の宗像敦氏は、『橋架部隊から地域の架け橋へ』と題して、三人兄妹の末っ子の本人だが兄妹一番の牛好きで、幼いころから将来は酪農をやりたいと密かに夢を抱き、高校卒業後はスキルアップのため一度自衛隊へ入隊、そして運命の女性と出会い結婚。実家の酪農を兄弟が誰も継がないことがわかり、妻と一緒に帰郷。まず、勉強のため酪農ヘルパー利用組合に就職し、現在は、酪農ヘルパーでの経験を活かしながら、後継者として酪農に向き合い、所得目標六〇〇万円と具体的な目標を掲げるとともに、自給飼料増産に向けて、地域の仲間とともにコントラクター確立を目指していくと発表しました。次に、宮酪青年婦人連絡協議会の菅原真由美氏は、『地域に理解される酪農家を目指して』と題し、臨床工学技士として病院に勤めていたが、酪農家の夫と出会い、結婚。酪農の仕事にも夫と一緒に牛舎・草地作業全般も行いながら、土日の空いた時間はお土産屋さんでのアルバイト。地元

動に参加しながら、牛乳消費拡大に努め、牧場においても酪農ファンづくりのために酪農体験受け入れにも積極的に取り組んでおり、『すべては家族の理解と協力があってこそ成り立つ』と家族の理解と協力があると、感謝の気持ちを発表いたしました。最後の山形県酪農青年婦人会議の樋口和憲氏は、『誇りある酪農家を目指して』と題して、『日本一美味しい牛乳を搾るんだ!』と小さい頃の口癖を実現するため消費者目線を大切に安全な高品質乳生産に励みながら、山形県酪農協の独自の「マイスター・ミルク」の称号を頂くなど、地域の活動や乳和食普及にも積極的に取り組んでいきたいと発表しました。



審査の結果、東北代表には宮酪青年婦人連絡協議会の菅原真由美氏が選ばれ、全国大会へ出場となりました。惜しくも、入賞を逃した宗像氏は、酪農を継ぐ決断をし、奥さんに『だまされたい。』と言われながらも一緒に帰ってきたことの意味はとても大きい、また、虫が苦手という奥さんではあるが、いつの日か一緒に酪農ができる日が訪れることを期待とともに、多くの審査員より『素晴らしい元気な若者が帰ってきてくれて嬉しい。今後に益々期待する。』という声があがりました。福島県代表として発表頂いた柚原さん、宗像さんの酪農に対する熱い思いを、これから酪農に携わる若者や後継者に伝えていきたいと思えます。

第45回 全国酪農青年女性酪農発表大会

今年の7月14日(木)~15日(金)に第45回全国酪農発表大会が、愛知県名古屋市「名古屋 東急ホテル」にて、開催されます。ぜひ、今年も多くの参加者が全国酪農発表大会に参加頂きますようご協力宜しくお願いいたします。

全酪連の小窓 第59回

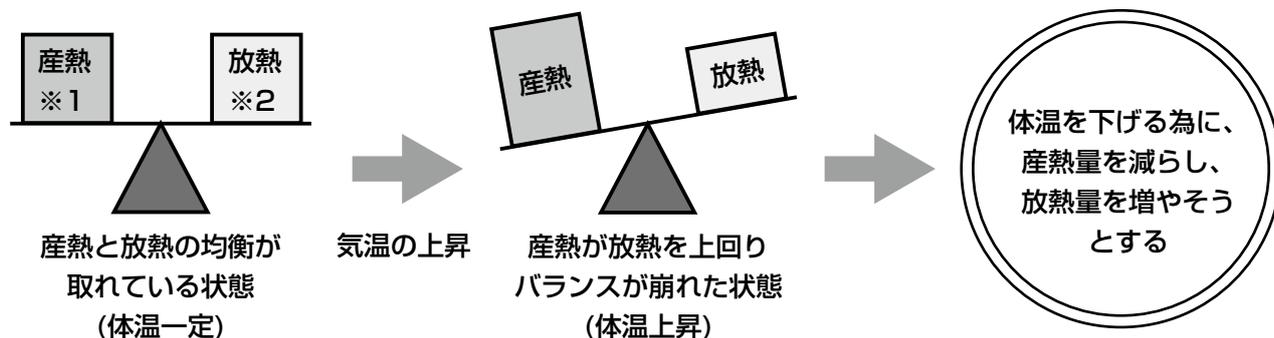
暑熱時における乳脂肪低下について

時下、酪農家の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、今回は、暑熱時にみられる乳脂肪率の低下についてお話ししていきたいと思ひます。

まず…暑熱ストレスを受けている乳牛は、飼料(特に粗飼料)の採食量が落ち込みます。

なぜ、食べなくなるのか…

暑熱下の乳牛は、産熱量と放熱量のバランスが崩れた状態となっており、このバランスを補正する為に、産熱量を減らし・放熱量を増やす行動を取るようになります。産熱の一つにルーメン発酵熱というものがあります。これは普段、体温維持に使われていますが、暑熱時には余計な熱となり得ます。発酵熱は飼料によって生産される熱量が異なっており、中でも粗飼料はとりわけ多くの発酵熱を生み出します。その結果、暑熱ストレスによる採食量低下は粗飼料から始まるわけです。



※1) 産熱…太陽熱(環境温度)、ルーメン発酵、牛乳生産など

※2) 放熱…呼吸、発汗、放尿など

なぜ、乳脂肪率が低下するのか…

乳脂肪は、『酢酸(粗飼料由来)』と『脂肪(体脂肪または飼料由来)』を原料とし、生成されます。その為、乳脂肪率の低下は、上記2つのいずれかが不足していることが要因と考えられます。暑熱時には前述の通り、粗飼料の採食量が低下する傾向がございますので、粗飼料が分解されることによって生まれる“酢酸”が不足し、乳脂肪が低下している場合が多いです。

対策としては①粗飼料の採食量を落とさないこと、②消化性の良い粗飼料を利用すること、が効果的です。

- ① “牛にとって快適な(暑熱ストレスの少ない)環境”を作ることが重要です。前月号にてお話しさせていただきました通り、牛舎の通気性を良くする・ファンを回す・日陰を作る等、牛舎内の温度を上げない(牛の体温を上げない)工夫をしましょう。
- ② 暑熱ストレスによって採食量が低下している状況では、粗飼料の消化性が重要になってきます。なぜなら、乳脂肪の原料である酢酸はルーメン内で粗飼料が分解され、生成されますので、“より乳脂肪になりやすい粗飼料=消化性の良い粗飼料”と言えるからです。

消化性： 稲ワラ・ストロー類<チモシー・クレインなど
刈遅れ粗飼料<早刈り粗飼料

また、長もの粗飼料ではありませんが、ビートパルプは消化性の良い繊維を多く含み、嗜好性も良い為、暑熱対策にはお勧めです！

以上が、暑熱時にみられる乳脂肪低下の仕組みでございます。

不明な点・疑問等ございましたら、各支所及び全酪連スタッフまでお寄せください！
今年の夏も暑さが厳しくなることが予想されますが、しっかりと準備をして皆で乗り切りましょう！

平成28年度海外酪農研修者募集のお知らせ♪

ヨーロッパ酪農視察研修9日間へ

平成28年9月4日(日)～12日(月) [9日間]

福島県酪農業協同組合が参加者に海外酪農研修費の助成を行います!!

海外の酪農を視察する全国酪農協会主催の「ヨーロッパ酪農視察研修9日間」へ、参加されます海外酪農研修者の募集を行っております。

参加者においては、福島県酪農業協同組合が参加経費の25万円以内を助成いたしますので、ご検討頂き、応募ください。

海外の酪農事情を直接見る・知ることのできる絶好のチャンスです!!

詳しい申込み・問い合わせについては、各支所へお問い合わせください。

1. 研修名 ヨーロッパ酪農視察研修
2. 研修期間 平成28年 9月4日(日)～12日(月) [9日間]
3. 日程 上記の通り
4. 派遣人員 2名程度
5. 参加費用
及び助成金 参加費／528,000円 *参加経費の1/2 (25万円以内) を助成する。
・上記の他、燃油付加運賃、航空保険料、海外空港税、国内空港使用料・渡航手続料、国内交通費が必要となります。
6. 応募資格 福島県酪農青年部・福島県酪婦人部やまびこ会会員
7. 申請方法 別紙書類を提出
(1)海外酪農研修申請書・
推薦書及び経営概況調査書
(2)小作文「我家の酪農経営に対する考え方、
将来計画について」
(3)全国酪農協会の参加申込書を記載し添付
8. 申請期限 平成28年7月1日(金)まで



帰国後、酪青連機関誌「白い牧柵」用の
研修報告書(感想文)を提出して頂きます。

農林中央金庫

東日本大震災 農機・園芸施設リース 導入支援対策事業の期間延長決定!!

農林中央金庫が、東日本大震災の影響を受けた被災地の農業復旧・復興を目的に農業者が復旧・復興投資をリース方式によって行う場合にリース料の一部を助成するリース導入支援対策事業が取り組まれており、この度、再度、見直しにより、対象期間が平成29年3月31日までと期間が延長されました。

当酪農協も、平成26年度より、事業対象となったことから、酪農協を通じて、実施したリース事業については、農林中央金庫の東日本大震災農機・園芸施設リース導入支援対策事業を申請することができますので、リース事業のご活用頂きますようお願い致します。

- | | |
|---------|---|
| 1. 事業名 | 東日本大震災農機・園芸施設リース導入支援対策事業 |
| 2. 目的 | 東日本大震災により被害を受けた農家が農機・園芸施設等をリースにより導入する際に、リース料の一部を助成することにより、早期営農再開に資する。 |
| 3. 対象者 | 東日本大震災で被災した地域の農家・営農集団（農業生産法人・復興法人・集落営農組織等）で、福島県酪農業協同組合を通じて、リースにより対象農機・園芸施設等を借り受けた者とする。 |
| 4. 対象期間 | ～平成29年3月31日 |
| 5. 支援対策 | 農林中央金庫は、対象者の（借受者）の農機・園芸施設リース導入支援対策として、リース料総額（税抜）の10%（円未満切捨）を支援する。（ただし、1リース物件に対する支出上限を40百万とする） |
| 6. 支援手続 | 必要申請書類並びにリース契約書の写しを添えて、酪農協を通じて申請を行う。その後、農林中央金庫が内容確認の上、助成決定通知し、助成金を交付する。 |



あま～やっと家に戻れた(^o^)
ミック(白)は浪江から東京目黒まで11ヶ月旅した。
やっぱ、家はいいなあ～。



『ほっとMilk』投稿募集について

1. テーマは自由（ほっと(^o^)^する話題がいいですね）
◎文章だけでも結構です。
◎写真があると最高です。
2. 受付（常時受け付けしています）
メール・FAX・支所経由・直接持参、何でもOKです。
E-mail : hiro-watanabe@fukuraku.or.jp・FAX0243-33-1103

乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

2016年2月29日現在

区 分	酪農家戸数			乳 牛 頭 数									
	組合／支所 戸数 (避難戸数)	前年度 戸 数	前年比	育成	初妊	経 産 牛				合計	前年度 頭 数	前年比	1 戸当 り頭数
						乾乳 妊娠	妊娠 搾乳	空胎 搾乳	小計				
県 北 支 所	(7)22	24	91.7	285	252	82	205	724	1,011	1,548	1,085	142.7	70.4
安 達 事 業 所	21	22	95.5	101	65	46	110	276	432	598	647	92.4	28.5
県 中 支 所	29	32	90.6	153	68	78	164	501	743	964	1,028	93.8	33.2
田 村 事 業 所	27	28	96.4	31	18	26	58	161	245	294	344	85.5	10.9
浜 支 所	(34)10	12	83.3	93	25	23	52	130	205	323	343	94.2	32.3
小 野 事 業 所	27	29	93.1	59	24	46	111	220	377	460	519	88.6	17.0
会 津 事 業 所	9	9	100.0	69	24	23	59	142	224	317	318	99.7	35.2
県 南 支 所	57	61	93.4	696	268	272	715	1,213	2,200	3,164	3,313	95.5	55.5
JAそうま飯館総合支店	(11)0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
県 酪	202	217	93.1	1,487	744	596	1,474	3,367	5,437	7,668	7,597	100.9	38.0

区 分	月 別 分 娩 予 定 頭 数								販 売 乳 量			
	2016 3月	2016 4月	2016 5月	2016 6月	2016 7月	2016 8月	2016 9月	牛乳 出荷 戸数	地域別販売乳量		1日1頭当り乳量	
									1日当り	1日1戸 当り	搾乳牛	経産牛
県 北 支 所	167	95	73	40	52	43	69	22	22,946	1,043	24.7	22.7
安 達 事 業 所	37	27	23	44	22	27	41	21	11,054	526	28.6	25.6
県 中 支 所	51	47	36	38	37	39	62	29	17,339	598	26.1	23.3
田 村 事 業 所	24	8	14	20	13	13	9	27	5,520	204	25.2	22.5
浜 支 所	21	15	8	10	13	13	20	8	4,468	559	24.5	21.8
小 野 事 業 所	24	26	21	26	24	28	32	27	8,528	316	25.8	22.6
会 津 事 業 所	10	10	15	8	20	12	31	9	4,741	527	23.6	21.2
県 南 支 所	145	136	144	172	211	164	283	57	53,187	933	27.6	24.2
JAそうま飯館総合支店	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
県 酪	479	364	334	358	392	339	547	200	127,783	639	26.4	23.5

平成27年度受託乳量の状況

平成28年2月の受託乳量は、県全体で前年比101.7%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が3,708トﾝ、前年比103.7%（対前年同月131トﾝ）と上回り、全農県本部は1,917トﾝの対前年比98.1%（対前年同月38トﾝ減）の

実績でありました。

東北生乳販連の受託実績については、前年比101.9%となりました。

なお、全国の受託実績は対前年比103.8%であります。（北海道：105.5%、都府県101.8%）

平成27年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

2月の東北全体での用途別販売状況については、飲用向けが103.1%（全国の前年比104.0%）、学乳向けは103.7%、醗酵乳向けが110.1%（全国の前年比109.8%）と上回り、加工乳向けは前年比87.9%（全国の前年比110.3%）、生クリーム向けは92.2%（全

国の前年比99.2%）、チーズ向けは90.3%（全国の前年比87.1%）と前年を下回り推移した。

なお、今月の当組合酪王乳業での生乳使用量は日量平均46.2トﾝで、本組合生産量の36.1%、県全体生産量の23.8%となっております。

平成27年度月別支払乳価表

2月分支払乳価については、昨年4月より飲用向け、醗酵乳等向けが値上げされ、また加工向けにおいても北海道の価格交渉結果に準じて値上げされ全用途について価格改定がされております。プール乳価は3円67銭前年より上回り、補給金単価は前年を17銭下回り、差引前年より3円50上回る単価となりました。

■東北全体プール乳代金 4,270,775千円 単価105.511円
 ■内 福島県分プール乳代金① 520,643千円 単価105.511円
 プール対象外乳代金② 104,630千円
 (学乳向け・買取向け乳代金)

合計乳代金①+② 625,273千円 単価111.161円

項目	28年2月	前年同月	増減	前々年同月
プール乳価	105円509	101円840	3円669	100円457
補給金単価	1円217	1円382	-0円165	1円404
合計	106円726	103円222	3円504	101円861

(注)上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

(東北全体2月)

用途別	販売乳量(トン)	日量(トン)	前年比(%)
飲用向け	29,084	1,003.0	103.1
加工向け	4,078	141.0	87.9
学校給食向け	3,071	106.0	103.7
醗酵乳向け	5,738	198.0	110.1
生クリーム向け	1,371	47.0	92.2
チーズ向け	206	7.0	90.3
全乳哺育向け	1	0.0	103.6
合計	43,549	1,502.0	101.9

団体別受託乳量の状況

団体名	2月分		
	受託乳量(トン)	日量(トン)	前年比(%)
県酪協	3,708	127.9	103.7
全農福島県本部	1,917	66.1	98.1
合計	5,625	194.0	101.7
東北生乳販連	43,548	1,501.7	101.9
全 国	572,031	19,725.2	103.8

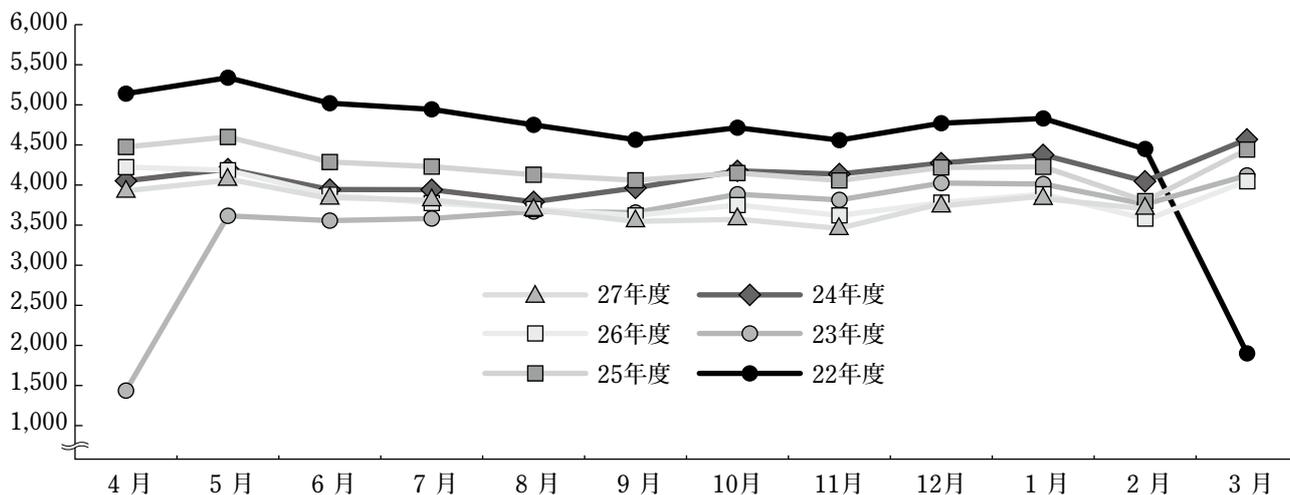
備考

1) 買取乳量を除く

月別受託乳量 県酪協 (トン)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22年度	5,140	5,322	5,018	4,944	4,753	4,566	4,714	4,560	4,764	4,829	4,445	1,899	54,954
23年度	1,436	3,614	3,544	3,581	3,669	3,656	3,874	3,815	4,030	4,012	3,759	4,118	43,108
24年度	4,052	4,200	3,943	3,913	3,790	3,964	4,178	4,110	4,273	4,373	4,054	4,569	49,419
25年度	4,476	4,605	4,287	4,231	4,129	4,062	4,149	4,053	4,219	4,276	3,807	4,343	50,637
26年度	4,148	4,185	3,879	3,775	3,703	3,621	3,749	3,620	3,781	3,886	3,577	4,035	45,959
27年度	3,921	4,061	3,836	3,802	3,658	3,513	3,575	3,486	3,668	3,830	3,708		41,058
前年比%	94.5	97.0	98.9	100.7	98.8	97.0	95.4	96.3	97.0	98.6	103.7		97.9

単位・トン



組 合 の 動 き 3 月

3月3日	福島県乳牛改良推進協議会第2回幹事会	3月18日	全国酪農協会酪農会館建設委員会
3月3日	福島県畜産振興協会理事会	3月18日	全国酪農協会役員会
3月4日	日本酪農政治連盟定期総会	3月22日	第7回管理委員会・第7回生産委員会 合同会議
3月4日	東北生乳販連事業推進委員会	3月22日	福島県畜産振興協会第2回通常総会
3月5日	味の素冷凍食品「東北に元気を！明日 を耕すプロジェクト」贈呈式	3月23日	福島県農業振興公社理事会
3月8日	やまびこ会決算役員会	3月23日	第45回東北酪農青年婦人会議酪農発表 大会
3月9日	東北生乳販連第4回理事会	3月24日	東北生乳販連臨時総会・第5回理事会
3月10日	福島県獣医師会第6回理事会	3月25日	第12回理事会
3月11日	乳牛セリ市場	3月25日	㈱らくのう乳販取締役会
3月14日	福島県農業会議常任会議員会議	3月29日	第12回経営検討会
3月14日	酪農ヘルパー利用組合連絡協議会	3月29日	第11回再建検討委員会
3月15日	浜支所運営委員会	3月30日	酪青連役員会
3月16日	福島県農業会議総会	3月31日	辞令交付式
3月17日	酪王乳業㈱取締役会		

理 事 会

第12回 3月25日

議 案

- 議案第1号 平成28年度事業方針並びに計画立案骨子について
- 議案第2号 平成28年度生産奨励対策について
- 議案第3号 平成28年度乳牛導入に係る貸付条件の緩和について
- 議案第4号 平成28年度余裕金預入先金融機関並びに運用方法について
- 議案第5号 平成28年度一組合員に対する貸付金並びに貸付金利率最高限度額について
- 議案第6号 平成28年度事業資金の借入並びに最高限度額決定について
- 議案第7号 本所事務所改修工事について
- 議案第8号 組合員の出資口数の減少について
- 議案第9号 平成27年度畜産競争力強化対策整備事業堆肥舎建設工事請負契約の締結について
- 議案第10号 年度末賞与の支給について
- 議案第11号 福島県酪農協共同復興牧場乳用雌牛導入事業実施要領及び貸付契約書の一部改正について

報告事項

- 1) 平成28年度定期異動について
- 2) 今後の日程について

管理委員会・生産委員会合同会議

第7回 3月22日

協議事項

- 1) 平成28年度事業方針並びに計画立案骨子について
- 2) 平成28年度生産奨励対策について
- 3) 本所事務所改修工事について
- 4) 組合員の出資口数の減少について
- 5) 平成27年度畜産競争力強化対策整備事業堆肥舎建設工事請負契約締結について
- 6) 年度末賞与の支給について
- 7) 福島県酪農協共同復興牧場乳用雌牛導入事業実施要領及び貸付契約書の一部改正について

平成28年度定期異動・昇進・昇格・新採用者・退職者

平成28年4月1日から業務機構の変更により、管理部の総務課、経理課、経営管理課は経営管理部の経営管理課となり、生産部の業務課、指導課は生産指導課となりました。

また、独立した監査室監査課が設けられました。

◆異動（昇進・昇格含む）

平成28年4月1日付

職位	氏名	新任	旧任
審査役	根津光夫	経営管理部部長兼監査室長兼浜支所長	管理部部長兼浜支所長
副審査役	佐藤幸光	経営管理部次長兼監査室次長	管理部次長
考査役	郡司初夫	経営管理課課長	総務課課長
考査役	横山良征	経営管理課課長兼監査室監査課課長	経営管理課課長
考査役	高橋章哲	経営管理課課長代理	経理課課長代理
副調査役	佐々木光輝	経営管理課	総務課
嘱託職員	白江留美	経営管理課	総務課兼経理課
考査役	松岡陽慈	生産指導課課長	指導課
調査役	柳沼鉄治	生産指導課課長補佐	指導課
一般職位	津守君枝	生産指導課兼診療課	指導課兼診療課
一般職位	甲斐響	生産指導課	指導課
嘱託職員	渡辺弘美	生産指導課	指導課
嘱託職員	佐藤偵土子	生産指導課	業務課
副審査役	遠藤強	生産部次長	県南支所次長
副審査役	野口泰幸	県北酪農指導所所長	県南酪農指導所副所長
考査役	木戸美幸	県南支所次長	業務課課長
副考査役	古姓保	県南酪農指導所副所長	県南酪農指導所
一般職位	鈴木守一	県中支所生産課	県北支所生産課
一般職位	国分顕一郎	県北支所生産課	県中支所生産課

◆昇進

職位	氏名	新任	旧任
一般職位	増子裕人	生産指導課（正職員）	指導課（嘱託職員）
嘱託職員	桑原志織	生産指導課（嘱託職員）	指導課（臨時職員）
嘱託職員	遠藤智子	県南支所（嘱託職員）	県南支所（臨時職員）
考査役	生田目克己	県中支所 考査役	県中支所 副考査役
考査役	米長久志	県北酪農指導所 考査役	県北酪農指導所副考査役
調査役	根本則子	購買畜産課 調査役	購買畜産課 副調査役
副調査役	安齋明德	県南酪農指導所 副調査役	県南酪農指導所

◆新採用

職位	氏名	新任
正職員	松本優子	県南酪農指導所（指導員）
正職員	佐川優子	県南酪農指導所（獣医師）
正職員	幕内裕人	県南酪農指導所（獣医師）
正職員	松田英	県北酪農指導所（獣医師）
嘱託職員	後藤和弥	県中酪農ヘルパー利用組合

◆再雇用

職位	氏名	新任
嘱託職員	鈴木真一	診療課長（嘱託獣医師）

◆退職者

平成28年3月31日付

氏名	事由	所属
佐藤正晴	定年退職	県北酪農指導所所長
鈴木真一	定年退職	生産部次長兼診療課長

バイエル子牛の健康講座 おしえて！ウッシー先生⑫

初乳中の免疫グロブリン濃度は母牛によってばらつきが大きく、約 80%の初乳で IgG 濃度が 60g/L 以下である報告をご紹介しました。

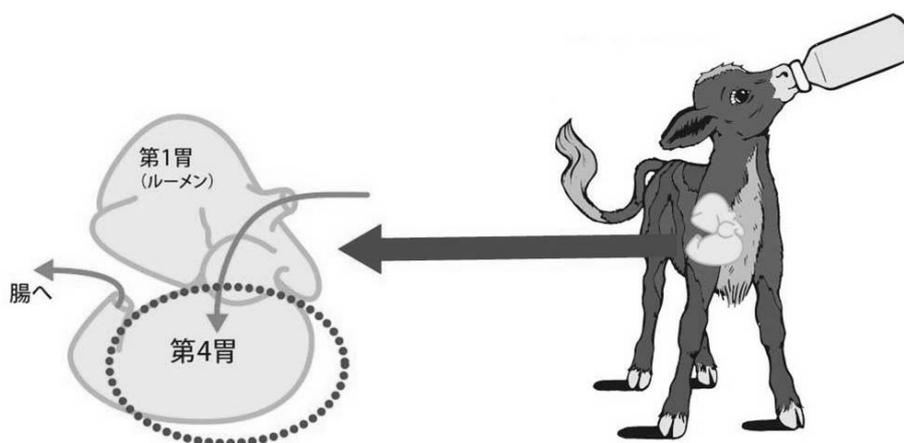
ところで生まれた子牛が免疫グロブリンを吸収する仕組みはどうなっているのでしょうか？これは以前にもご紹介した「カード形成」が重要な役割を果たしています。



ウッシー先生

子牛は母牛の胎盤を通じて抗体が移行しないので、生まれた時点では免疫グロブリンが欠如した状態となっています。そのため初乳を通じて免疫グロブリンを得る必要があります。

生まれたばかりの子牛の消化吸収能力は低く、ルーメンは未熟です。初乳はまず第4胃に入り、そこで分泌される酵素のはたらきで「カード」というチーズ状の塊になります。そして、初乳が「カード」になるときにじわじわと免疫グロブリンが染み出てきて、腸に流れて腸から吸収されるのです。



ところで、初乳の品質のばらつきを初乳製品で補う場合もあるかと思います。しかし、製品によっては「カード」を形成しない場合があります、その結果 IgG を効率よく吸収できないおそれがあります。

右の写真をご覧ください。これは「初乳そのもの」を材料とした初乳製品がカードを形成する様子を表しています。ひとことで初乳製品と言っても内容は様々です。きちんとカード形成する「完全初乳粉末」を用いることで、子牛がしっかりと免疫グロブリンを獲得することとなるでしょう。



バイエル薬品株式会社

動物用薬品事業部

〒981-3133

仙台市泉区泉中央 1-14-1 インテレクト 21

TEL (022)776-0271

ZENOAQ コーナー～Vol.137

再掲載



駆虫について考えよう

〒963-0196

福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1

日本全薬工業(株) 福島営業所

TEL024-945-2306 FAX024-945-9345

■ 駆虫していますか？

牛の生活には様々な虫たちが関わっています。ルーメン内で飼料の消化に関わる有益な虫だけでなく、身体の内外に寄生して食べた栄養を横取りしたり、寄生による痒みがストレスとなり牛の生産性を低下させる虫たちがいます。

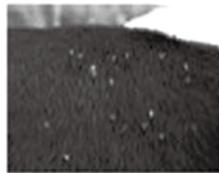
■ 牛に関係する寄生虫とは

牛に関係する寄生虫は外部寄生虫と内部寄生虫の大きく2つに分類されます。

今号は外部寄生虫について解説させていただきます

外部寄生虫

体の表面に寄生し、直接目で見て症状や虫の確認を行うこともできます。牛に痒みや吸血によるストレスを与えて生産性を低下させます。



ノサシバエ



ハジラミ



疥癬ダニ

次のような痒がってかわいそうな牛さんはいませんか？

- ◎牛さんが柱や隣の牛さんにゴシゴシ擦り付けているところ見かけませんか？
- ◎牛さんが目いっぱい体を折り曲げて一生懸命舐めるところ見かけませんか？
- ◎牛さんがハエがいないのに尻尾を落ち着きなくブルンブルン振っているところを見かけませんか？

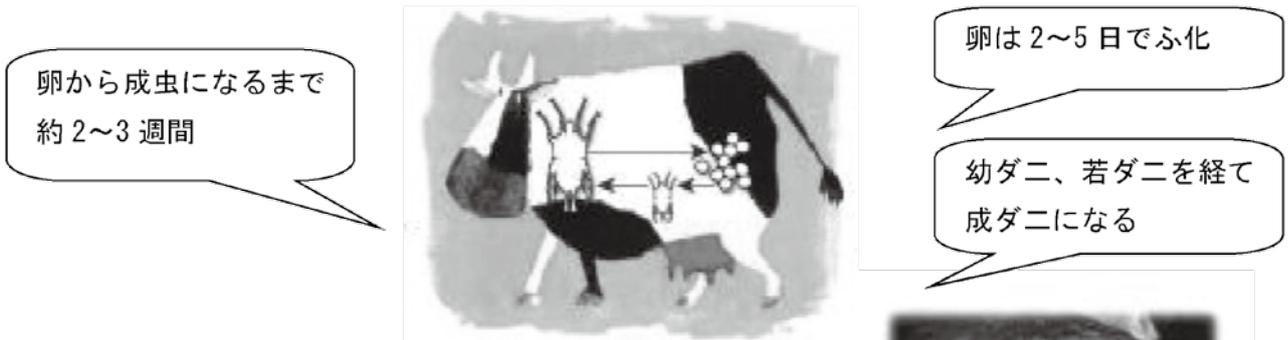
「もしかして疥癬、牛ジラミの影響かもしれませんよ……」

改めて次頁で痒みとストレスを解説いたします

ゼノアックコーナー

乳牛で問題になることが多い疥癬ダニとは？

疥癬は、微小なダニであるとゼンダニ類（主に食皮ヒゼンダニ: Chorioptes bovis）の寄生により起こる皮膚炎です、食皮ヒゼンダニは牛の表皮や皮脂膜の分泌物を摂食し、その一生を牛の体表上で過ごします。卵は2～5日でふ化し、幼ダニ、若ダニを経て、成ダニに成熟します、卵から成ダニになるまでの期間は約2～3週間です。1匹のメスが一生の間に約90個の卵を産卵すると言われています。



食皮ヒゼンダニは牛の尾根部、後肢上部、乳房上部に痂皮（かさぶた）を形成し、強い痒みを引き起こします。痒みは牛にとって大きなストレスとなり、生産性の低下をもたらします。右の写真のように、尾根部が脱毛し、痂皮のある牛がいたら、牛群が疥癬ダニに汚染されているサインです。



ストレスが引き起す搾乳牛への影響



正常な射乳のメカニズム

牛にストレスがかかると交感神経が刺激され、アドレナリンが分泌されます。アドレナリンには血管収縮作用があり血流量が減少するため、乳腺に届くオキシトシン量が少なく、射乳量が減少します。これは過搾乳の原因となり、乳房炎の発生リスクを高めます。

ストレスから牛を守るために、駆虫を行ってストレス要因の1つである疥癬による痒みから解放してあげましょう。エプリネックストピカルなら搾乳牛にも投薬できます。

牛乳の休薬がゼロで、搾乳牛に駆虫できる画期的な製品ができました

第45回

主催 全国酪農青年女性会議 / 全国酪農業協同組合連合会

全国酪農青年女性 酪農発表大会

in
名古屋



平成28年
7/14(木)・15(金)

日程

7月14日(木)

- 13:00~13:55 開会式
- 14:00~16:15 酪農経営発表
- 16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
- 16:40~18:15 酪農意見・体験発表
- 19:30~21:30 懇親会

7月15日(金)

- 9:00~ 9:30 酪農経営発表質疑応答
- 9:30~10:00 酪農意見・体験発表質疑応答
- 10:15~11:40 審査講評・表彰式
- 11:40~11:50 閉会式

大会参加費

1名 **13,000円** (大会・懇親会まで)
※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

● 会場・宿泊

「名古屋 東急ホテル」
〒460-0008
名古屋市中区栄 4-6-8
Tel 052-251-2411

● アクセス



- 鉄道の場合
地下鉄東山線「栄駅」下車 12 番出口から徒歩 5 分。
- 車の場合
高速都心環状線 東新町出口から、「東新町」交差点を右へすぐ。
- 飛行機でお越しの場合
セントレア (中部国際空港) からは乗合タクシーが便利です。所要時間約 50 分。

大会事務局

全国酪農青年女性会議 〒108-0014 東京都港区芝 4-17-5 全酪連指導・企画部内 / TEL. 03-5931-8003

作品募集のお知らせ

主催：全国酪農青年女性会議

第43回 らくのうこども ギャラリー

1 募集規定

- (1) 酪農を中心とした題材の図画(大きさは自由)
- (2) 自作で未発表のものに限りです。
- (3) 作品には、題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4) 作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

2 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

3 締切日

平成28年5月27日(金)(当日消印有効)

4 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性(婦人)会議事務局宛に提出してください。

5 審査結果の発表

「第45回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

6 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 4点以内
- ・秀作 若干
- ・ファミリー賞 若干
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
- ・あすなろ賞 若干
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)

◎特選に選ばれた方は、保護者(1名)同伴で「第45回全国酪農青年女性酪農発表大会」に招待します。

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第42回特選 「牛の一場面」
仲原柚奈さん

第7回 酪農いきいき フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただけますようお願いいたします。

1 テーマ

- ①「乳牛のいる風景」
- ②「酪農作業風景」

※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のための懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。



第6回最優秀賞 「温かくて、お昼寝さむちいー」
古川美津子氏

2 募集規定

- (1) 写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2) 自作で未発表のものに限りです。
- (3) 作品には、題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。

3 応募資格

酪農家

4 締切日

平成28年5月27日(金)(当日消印有効)

5 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性(婦人)会議事務局宛に提出してください。

6 審査方法

応募作品を「第45回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。(応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。)

7 審査結果の発表

- ①「第45回全国酪農青年女性酪農発表大会」2日目に投票結果として掲示します。
- ②「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

8 褒章

- ・特選 1点 (2テーマの中で特別に投票数の多かった作品)
- ・入選 若干数(特選を除いて投票数の多かった作品数点)
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
- ◎提出していただいた作品の返却はいたしません。
- ◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。

提出先一覧

■東北酪農研究会

〒960-1408 伊達郡川俣町羽田字宮前5-2
福島県酪農協同組合東北支所内
TEL 024-565-2448

■浜酪農青年研究会

〒969-1103 本宮市仁井田字一里壇17
福島県酪農協同組合浜支所内
TEL 0243-33-4011

■京中酪農研究会

〒963-0201 郡山市大槻町字古屋敷41-1
福島県酪農協同組合京中支所内
TEL 024-951-3361

■京南酪農研究会

〒961-1103 白河市東金子字陣ヶ平1-1
福島県酪農協同組合京南支所内
TEL 0248-34-1410

■全農福島酪農同志会

〒963-0725 郡山市田村町金屋字川久保23
全国農業協同組合連合会福島県本部畜産部酪農課内
TEL 024-983-0512

＼＼ QUOカード&オリジナルグッズGet!! 〃〃



酪王カフェオレと
みんなの
笑顔を
大募集!!

写真 動画



キャンペーン期間
2016年4月15日▶6月30日

ご応募
お待ち
してま〜す!

選ばれた40作品に
オリジナルグッズ進呈



特に優れた作品は
TVCMで
O.A.します
オンエア



缶バッジ



Tシャツ

ナップサック



QUOカード



マグカップ



応募方法

- ①スマホ・PC・タブレットから右記「QRコード」もしくは「酪王牛乳」で検索。
- ②キャンペーン特設サイトから「酪王カフェオレと笑顔」の写真もしくは動画をお送り下さい。

応募の際はサイトに記載する注意事項をよく読みご応募下さい。

<http://www.rakuou-cafe40th.com>



ひとつひとつに心をこめて



酪王乳業株式会社

〒963-0201 郡山市大槻町字古屋敷80-1
TEL.024-951-7731(代) FAX.024-951-7777(代)



発行者 福島県酪農業協同組合
発行責任者 常務理事 岡 正宏

〒969-1103 福島県本宮市仁井田字一里壇17番地
TEL 0243-33-1101 FAX 0243-33-1103
URL <http://www.fukuraku.or.jp/>